

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月4日

【評価実施概要】

事業所番号	4271101802		
法人名	株式会社サポート		
事業所名	グループホーム サポートピア 葉山		
所在地	〒851-217 長崎県西彼杵郡長与町高田郷2179-1 (電話) 095-855-2871		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年3月25日	評価確定日	平成20年4月21日

【情報提供票より】(H19年 3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	14年	11月	1日
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27	人
職員数	23 人	常勤	20 人,	非常勤 3 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成19年8月10日現在)

利用者人数	27 名	男性	4 名	女性	23 名	
要介護1	10 名	要介護2	10 名			
要介護3	4 名	要介護4	2 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	歳	最低	73 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	尚生クリニック・松谷歯科医院
---------	----------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長崎市に隣接する住宅地の中に溶け込むように立地している当ホームは、隣家やマンションが傍近く、坂を上り詰めた小高い立地でホーム前の庭は広く明るい。手入れされた木々と花壇の花やウッドデッキ、日よけの parasol のもと、ベンチが置かれ、寛げるスペースが心地よく広がり、面会訪問の多い当ホームにおいては、利用者と家族の憩いの場となっている。ホーム内部も広々と快適に整えられた空間であり、理念に沿った環境作りが窺える。理念に謳われる「地域との関わり」については、開設時より努力を重ねており、行事を通しての交流と相互理解、更に防犯防災における協力と、日常の近隣への挨拶も含めてホーム一体となって前向きに取り組んでいる。母体組織は幼児から高齢者、障害者まで多岐にわたる福祉施設を運営しており、教育研修、相互研修を重点的にバックアップしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価後は、ユニット会議にて検討し、改善計画シートを作成・活用している。感染症マニュアルの整備と対応への体制作り、介護向上委員会においての応急手当に関する勉強会といった取り組みが継続されており、地域に対する運営理念の啓発として、地域への広報誌とホーム便りに理念を掲載するなど、積極的に改善に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、各ユニット会議において全項目を確認し、気づきをあげて記入することで職員全員で取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	4ヶ月に1回を目途に開催されているが、概ね2ヶ月に1回の開催が望ましい。利用者、家族の他、自治会長、老人会、婦人会、近隣住民と多くの地域の方々に参加頂いて、活発な意見交換がなされ、ホームからの活動報告、夏祭り等の行事について協働を図り、話し合いを重ねることで地域における相互理解が得られている。昨夏より会議開催はなされていないが、地域との連携において欠かせないものとして近々の開催を検討している。又行政等からの参加も望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱の設置、重要事項説明書に苦情相談窓口を明示するなど、家族に意見聴取に対する取り組みがなされている。年1回、家族会を開催しており、昨年は3ユニット全体で7割以上の家族の参加を頂き、議題を設け、ホーム側からは説明、報告がなされ、家族からは貴重な意見を頂くことで、よりよい支援と運営に反映させるよう努めている。さらには、家族だけの話し合いの時間を設けるなど、意見を出しやすくするような雰囲気作りの取り組みに期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との交流、関係作りを重視し、開設時より継続して積極的に取り組んでいる。ホーム主催の夏祭りは参加者も年々増えて地域の行事として定着しつつある。行事、運営推進会議等を通じ、災害対策においても協力を仰ぎ、また利用者職員による地域パトロールの役割を担うことで協働がなされ、ホームへの理解も深まっている。今後も引き続き、取り組みに期待できる。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関わりを重要視し、その中でキーワードとなる「癒し」をあげて心の安らげる空間作りを目指し、「エンパワメント」として個々の持っている力を引き出す活力ある暮らしへの支援を理念としてあげている。又、地域への理念の啓発活動として通信、パンフレットに理念を記載した。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の掲示は、各ユニットの居間や事務室にされている。毎日の申し送り、月1回のユニット会議において、理念が日々の支援に反映できるよう心がけている。新入職員に対しては、初日の研修として理念に関するオリエンテーションを行い、浸透を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年の恒例の夏祭りは、地域の方の参加が更に増えて、地域の行事として定着し盛況であった。利用者、家族にも好評を得て、今後も加入している自治会と協力し、話し合いを重ねながらよりよい形で継続されることに期待できる。老人会のお花見参加などイベントへの参加もさることながら、開設時よりホーム長はじめ職員が、地道に理解を求め、日常の挨拶等に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニット会議で職員全員が閲覧、項目を確認し、気づきをあげていくことで全員で取り組み、取りまとめ一人の職員が入力する方法をとった。外部評価後は結果を会議で話し合い、改善計画シートも作成され、評価を日々の支援の振り返りの場として理解し活用がなされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4ヶ月に1回を目途に開催されているが、概ね2ヶ月に1回の開催が望まれる。利用者、家族の他、自治会長、老人会、婦人会、近隣住民と多くの地域の方に参加頂き、ホームからの報告と、行事に関する協働を図り、話し合いを重ねることで地域における相互理解が深まっている。昨夏以降、ホーム内の事情により会議開催がなされていないが、4月開催を目標に今後も会議の活用を目指している。		

グループホーム サポートピア葉山

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町内のグループホーム連絡協議会発足、参加に伴い役職員との接点も生まれて来つつある。まずは、活発な会議が行われている運営推進会議への参加を依頼し、連絡、相談の関係を深めていけるよう取り組みを始めた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会訪問は多く、直接口頭で報告できる機会は多い。場合によって電話で随時連絡、報告している。担当制としているので担当職員から個々の家族へ私信として近況報告を他書類と共に郵送している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、重要事項説明書上に苦情相談窓口を明示するなど、家族の意見聴取に対する取り組みがなされており、年1回、家族会を開催している。昨年は3ユニットのうち7割以上の参加を頂き、議題を設け、ホーム側からは報告、説明がなされ、家族からは貴重な意見を頂くことで、よりよい支援と運営に反映させるように努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年暮れに、退職者が多く出て、職員体制の立て直しを迫られる事態となった。近隣地域へも呼びかけ新規採用を募り、母体機関からの応援も得る中で、ユニット間での職員異動も経て、現在は新しい体制にて落ち着きつつある。利用者への影響に最大限配慮し、人材育成と人的配置の確保に現在も努力を続けている。		利用者へのダメージについて重く受け止め、利用者、家族との信頼関係構築の為に、異動、離職を最小限に抑える職場作りに努めていかれることに期待したい。又、現在、スーパーバイザーの導入による職員のメンタルケア、3ユニットの連携を深める試み、職員間のチームワークを高める交流、学びの機会をつくる等取り組まれていることから、今後も、更に母体組織とも検討を図り、取り組まれていかれることに期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内における勉強会、法人内他施設(福岡、佐世保等)との交換研修等、内部研修は充実しており、外部研修も告知がなされ、希望者は日勤扱いでの参加も可能であった。今年度は職員の異動による状況変化の影響があり、ほとんどの職員が十分に学ぶ機会を得ることができなかった。		職員の異動、離職に伴う影響を考慮し、新規職員の人材育成と定着を念頭に教育研修の強化が必要とされている。他在職者のスキルアップの機会も、人的配置の問題で停滞することが避けられるよう、内部、外部研修の年間を通じた計画の検討に期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の10事業所からなる連絡協議会に参加している。ホーム長は連絡協議会の役員も務めており、今後も意見交換、情報交換等の連携をすすめ、相互にサービスの質の向上に努めていく。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービス利用開始の際は、ホームを見学して頂き、こちらからも病院、家庭訪問を行って安心して納得して頂く配慮を行っている。本人、家族との面談を重ね、本人のペースを崩すことなく馴染んで頂ける支援に努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は支援する側として業務にばかりとられることのないよう、利用者に対峙し、年長者に対する尊厳の気持ちを忘れないよう心がけている。業務等で悩んで疲れている時、利用者の方のユーモアあふれる言葉で癒されることもあり、感謝の念を抱いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人、家族との面談と日常の会話、様子からの気づき、意向を、センター方式によりまとめ、細かく記述、記録し「その人」像を作成している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族の意向を踏まえた上、職員は利用者に対して担当制をとっており職員と計画作成担当者がユニット会議等で話し合い、個別性のある計画作成を行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的(3ヶ月)な見直しを変化がない場合も行い、期間内に変化が生じた場合は随時見直しを行うようになっている。独自の書式に工夫の努力が伺え、日常生活の記録はわかりやすいものとなっている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の外出、外泊は自由になされている。受診支援もおこなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医との継続した関係を大切に、受診支援を行っている。月に1回、かかりつけ医による往診もなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取り介護についての同意書」を作成し、全員ではないが同意を得ている。ただし同意書の内容において、重度化に伴う介護について『出来ること、出来ない事』が明らかとは言い難い。家族、かかりつけ医との話し合いによる、現状の重度化に伴う介護と医療処置の対応において、ホームとしての一貫した方針、スタッフ全員による共有化がなされていない。		重度化に伴う介護、看取りの方針に関して、母体組織とも協議の上、指針を見直し明文化されることに期待したい。又、ホームとしての指針を定めて、意向を視野に入れた上で本人、家族への説明と同意を得られることを第一に、ホーム側としては職員体制を考慮し全員で方針を共有することが望まれる。加えて状況変化に伴う関係者間の随時の話し合いとその都度の方針の確認も望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	認知症の症状にとらわれることなく、常に個人個人に対しての言葉かけ、対応に配慮するよう努めている。重要書類は事務所内のキャビネットに保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	例えば、利用者の希望に沿って一つのユニットでは他のユニットと違い入浴を夕方の時間に設定し対応している。利用者の意向、ペースを尊重した配慮をもったの支援に努めている。		

グループホーム サポートピア葉山

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理専門の職員がいるため、利用者と共に職員も余裕をもって準備から食事を共に摂ることができる支援がなされている。利用者は積極的に準備に関わられて、食事中も会話が多く和やかな雰囲気である。花見に弁当をもって出かけたり、手作りのケーキも作ったりと食の楽しみに対する支援もなされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おき交互の入浴日としているが、希望には柔軟に応じるようにしている。日曜日は家族との外出が多い為、基本的に入浴は休みとしている。入浴を拒まれる方には清潔保持の為、出来る限りの支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各自の持っている力を活かして食事の準備、後片付け、モップかけ、カレンダーの日めくり等、役割を持ってお手伝い頂いている。折り紙に取り組まれたり、月に1回ボランティアで指導に来て頂く詩吟の教室を心待ちにされる方もいる。1ユニットで行っている頭の体操(テスト)には、興味のある方は他ユニットからも参加して頂いている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩、庭先のウッドデッキでの外気浴をはじめ、家族の協力も得て、美容室、喫茶店など思い思い希望に沿った外出の機会を多くつくるように支援している。長崎市内の繁華街等行きたい場所へ外出することも目標において、日常の活動の励ましともしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に施錠はされておらず、開放されている。地域の警察の指導もあり安全を考え、一部の出入り口の施錠、センサーブザーを設置した。経年の地域に対するの努力により、職員の見守りに加え地域住民の自然な見守りの協力が得られている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時避難訓練を1年に2回実施している。訓練の際は近隣住民に見学して頂いたり、地域の消防教室に職員が参加しホームでの対応を伝える等、地域との協力体制も積極的に進めている。スプリンクラー等の消防設備も整備され、母体組織においても災害時の備蓄に関しての予算を検討するといった万全の備えに取り組んでいる。		火災に対する対策、準備は入念にされていることを踏まえ、更に万全を期す為に、夜間実施も加えての自主訓練の機会を増やされることを検討され、ハード面での充実に加え、職員の備えの意識向上を実地訓練の反復により高めることを期待したい。加えて火災以外の地震等の災害に対するマニュアル作成の検討も図られることにも期待したい。

グループホーム サポートピア葉山

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
kaisuu					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士の資格を持つ職員によりたてられている。刻み等の形態食の対応もなされている。毎食後、残食料もチェックし、水分摂取に関しても三食、午前午後のお茶の時間、入浴後に配慮して勤める支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3ユニット共に広々とした居間、食堂が憩いの場となっている。採光や広さ、畳の間の有無等の違いにより、テーブル、ソファの配置に各ユニットで工夫がされている。訪問された家族と利用者が語らうスペースも、ウッドデッキのベンチを含めゆったりと過ごせる配慮がホーム内になされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室はクローゼット等の収納は準備されているが、ベッド、寝具、家具、調度品等多くが持ち込みであり、その人らしい部屋作りがなされている。		